

御霊神社(東松山市)





こんなものもあった



社殿裏にあった板碑



境内から少し離れた南側にある「小代の板碑」





いずれも鎌倉時代の板石塔婆



↑
仁治二年の板碑

↑
阿弥陀一尊板碑

↑
阿弥陀三尊板碑





阿弥陀一尊板石塔婆

昭和五十五年一月十日 東松山市指定文化財

高さ一〇五セリ^ト幅四六セリ^トの大きさで、山形は低く、二条線の線刻も浅い。白形の蓮台の上に、阿弥陀如来立像が浮彫されている。阿弥陀如来立像は、像高二四・五セリ^トで、下品下生の来迎印を結んでいる。阿弥陀如来立像の下に摩訶止観の偈等が彫られている。記年銘は上半分が磨滅し、「七月 日」だけが読みとれる。

板石塔婆全体の彫刻技法や、阿弥陀如来立像の彫刻等から、鎌倉時代の板石塔婆であると思われる。

阿弥陀三尊板石塔婆

昭和五十五年一月十日 東松山市指定文化財

板石塔婆の上部が欠損しているが、大きさは高さ一〇〇セリ^ト幅四二セリ^トである。

身部の中央部に阿弥陀三尊立像が浮彫されている。主尊の阿弥陀如来像は、上半部が欠損しているが、来迎印を結び、観音像は左や下下に説法印、勢至菩薩は右脇下に蓮華合掌し、それぞれ白型の蓮台に立っている。

銘文、記年銘は磨滅しており、板石塔婆の製作年代は明らかでない。浄光寺(市内金谷)の建長二年(二五〇)香林寺(市内大黒部)の仁治二年(二四二)存銘の板石塔婆と前後して製作されたものと思われる。

仁治二年の板石塔婆

昭和五十五年三月五日 東松山市指定文化財

板石塔婆は新井家の前の堀から掘り出したものだそうである。板石塔婆は一部破損しているが、高さ九二セリ^ト幅三九セリ^トである。板石塔婆の上部に阿弥陀如来を表わす種字(キリク)が薬研彫されている。種字には蓮華座等は彫られていない。

銘文は観無量寿経真身観の偈を四行に記し、その間に「仁治二年(二四一)」の記年銘を刻んでいる。仁治二年の記年銘は、市内最古のもので、隣接する香林寺にも仁治二年九月記年銘の阿弥陀一尊板石塔婆が所在する。

昭和五十七年三月

東松山市教育委員会